

平成 28 年 3 月 2 日

第 8 回 I C T 利活用教育の推進に関する事業改善検討委員会議事概要

1. 開催日時 平成 28 年 12 月 17 日（木）14：00～15：30
2. 開催場所 教育委員会室
3. 委員出席者（敬称略）
富吉委員、飯盛委員、石橋委員、伊東委員、野中委員、大久保委員、田中委員、秀島委員、西牟田委員代理
4. 教育委員会出席者
神代県副教育長、土井教育情報課副課長、島川教育情報課副課長 他
6. 議事概要
(1) 開会 土井教育情報課副課長

【事務局】

※ 資料確認

(2) 協議

- ① 今後の I C T 利活用教育の取組について

【富吉座長】

前回の委員会で今年度は閉じると説明があったが、そういう事も含め事務局から説明してもらおう。

【神代副教育長】

自分も第 3 回事業改善検討委員会から参加しているが、当委員会は、今年度限りではなく、来年度以降も必要と考えており、不断の見直しも必要である。様々な意見を聞くために今年度も引き続き開催し、今後不断に行うこととしたい。

今後は、これまでいただいた意見や、課題をまとめたものをベースに検討していきたいと考えており、これからの対応も含まれるが、対応済みのものは評価や、それに対する課題もご指摘いただき、改善に生かしていきたい。また、新たな課題が出てきた場合は、委員の皆様で協議をお願いしたい。

【富吉座長】

今回で、8回目の委員会となるが、今後も意見等を聞きながら進めていきたいと考えており、より良い教育のために意見をいただきたい。

自分は、12月13日（日）のプレゼンテーション大会に参加したが、我々の高校時代の授業とは打って変わって、これぞICT教育というものであった。また、子供達のプレゼン能力の高さはすごいと感じた。

発表の中では、商業、サッカー、野球等様々なデータ分析を行っていたが、大量のデータ分析の場合は、ICTの利活用で差が出ると考える。また、教員のスキルの大切さもよく分かり、苦手とは言っていられないと考える。

ICT利活用教育の改善、あるべき姿など忌憚のない意見をお願いしたいが、まず、一項目目に、事務局から、整理してもらった課題や対応の説明をお願いします。

【事務局】

※ 資料1の説明

【富吉座長】

パンフレットは定期的に発行するのか。

【事務局】

今回のパンフレットが保護者等へ行き渡ったのは11月であり、各学校を通じて配布した。

【富吉座長】

意見を反映した課題等を提示してもらったが、質疑を15時30分までを目途に進めたい。意見を出してほしい。

【伊東委員】

文部科学省生涯学習政策局の室長と話す機会があったが、「佐賀県の取組は、紙とICTの両方を持っているところが他県より進んでいる。また、生徒も両方使っている状況であり、このまま推進してほしい」との意見であった。ICT利活用教育の取組をリードしてきた県のPTA会長として、この様な佐賀県の素晴らしさを生徒も保護者も認識すべきと考える。

生徒のパフォーマンスも高くなっている中であって、致遠館高校の保護者会としても、モデル校で終わる普通の高校になってはいけないとの思いで、こ

れからも佐賀県の取組をリードしていきたい。首都圏では私立の学校が自学で取り組んでいるようなことを、致遠館がどんどんやっていきたいと考える。佐賀でこそやっていくべきであり、高校での成果が問われている。PTAで背中を押していきたい。

平成30年に予定している、PTAの全国大会においては、ICT特別委員会を設けて、全国へ発信したいと考えており、ICT利活用教育を推進していくことを思って大会に臨んでいる。

【富吉座長】

PTAの全国大会で、特別に、ICT特別委員会を作るのか。

【伊東委員】

特別委員会は主催県が自由に作って良いことになっており、主権者教育とICTの特別委員会を作る予定である。

事業改善検討委員会の皆様にも協力をお願いしたい。

【西牟田委員代理】

電子黒板は評判が良いが、パソコンは教員の中には慣れない人もおり、生徒にはどうなのかと考える。

将来必要だから良いとは思いますが、高校教育に必要なものだから無償とすべきであり、借金して購入することを教育の現場が許して良いのかと思う。

また、先生の残業も増えており、これでまた増えると問題である。

自分は、元県庁職員で、塾や私学で勤めた経験もあるが、私が前にいた学校では、パソコンの導入を検討していたが、他校では、成績が上がらないということで、引き上げた事例もある。パソコンはサブなら良いが、メインにしたときに、果たしてどうなのかと考えており、教育委員会でも考えてほしい。大手の塾もタブレットは取り入れておらず、ICTを導入したことの責任は誰がとるのかと考える。

【富吉座長】

現実的な疑問の意見であった。ICT利活用教育の効果判断は難しいと考えるが、現場では必要なことではないか。

【田中委員】

事業自体の、そもそもの目的、ビジョンを示していただきたいと考える。

パンフレットについて、書いてある事は、国の方向性であって、県としてどうするのが未だに疑問である。また、パンフレットは、事業改善検討委員

会で事前に目を通していない。

資料1について、意見等が出たそもそものデータは何なのか、出所が不明で分からない状況である。また、「理由として考えられること」の根拠を示してほしい。基礎となるデータが乏しく、推論となっており、もっと客観的なデータを示してほしいと考える。

教育センターのデータは開示請求できるのか。

【事務局】

開示請求は可能である。

【田中委員】

提案だが、本格実施後の2年間で毎年約6千人の生徒が学習用PCを持つことになっているので、これらの生徒、保護者へ無記名でよいのでアンケートを行ってほしい。具体的なもので検討を行うべきと考える。

【富吉座長】

田中委員は、一貫してデータを求められている。何らかの根拠があってそういうまとめになったのだろうと考える。

【事務局】

意見等については、事業改善検討委員会が出された意見や、指導主事による定期的な学校訪問、教育長の学校訪問等で聞いてきた意見をまとめたものであり、これまでもそう説明してきた。

【田中委員】

アンケートとかは過去に行っていないのか。

【事務局】

「授業が分かるようになった」かを問うアンケート等は行っている。

【田中委員】

教育センターへ開示請求を行いたい。

【西牟田委員代理】

昨年と比べて成績がどうかというような、学校別のデータは出して良いのではないか。

【田中委員】

私の知る範囲でも使ってないという声が多い。学習用PCの効果が体感できていれば、使うようになるのではないかと考える。

【伊東委員】

生徒への導入が進んでいる中で、生徒の声が一切ない。子供の声を取り上げてほしい。1万人もとは言わないが、教育フェスタでのアンケート結果もあるのではないかと考える。

パンフレットの内容は、佐賀県の独自性が盛り込まれていないと考えており、文字が多いし、絵で見やすくすべきだと考える。

学習用パソコンの購入には、個人負担が5万円もかかるが、良かったという人もおり、子供の声をあげてほしいと考える。

【富吉座長】

プレゼンテーション大会に参加し、本当に感心したが、全ての高校生の姿ではない。一つ一つ改善が必要であり、アンケートを実施してみることも検討課題であると考えている。

生の声を聞いて是正するのも行政の役割であり、大規模なアンケートを実施しても良いのではないかと考える。

【西牟田委員代理】

自分の子供も学習用PCを使っているが、活用できる、出来ないは別として、パソコンを持てて良かったという子もおり、学習用パソコンは無償化してもらいたいと考える。

また、パソコンを使うことをメインにすることによって、教員の負担を増やしてほしくないと考えている。

【富吉座長】

モデル教室ではなく、全部の学校で実施している難しさがあり、対象者が2千人、3千人となると一律にはできないと考える。

【田中委員】

モデル校はあったのだが、結果が反映されていないと考える。

また、どこから改善するかを考える場合でも、話が大きくなり、データもないので、話が進まなくなっていると考えている。

【伊東委員】

モデル校の状況をまとめた冊子があり、致遠館高校として提供してよいと考えており、パンフレットには、子供の代表的な意見を載せるだけでよいと考える。

【飯盛委員】

現在の小学生が成人する頃には、仕事が半分になるという話を聞くが、現在、大学や企業でパソコンの技術はどれくらい必要とされているのか。

【西牟田委員代理】

自分としても、ワード、エクセルは必要と考えているが、企業も3～4割は、パソコンが出来る子を採用したいと思っているのではないかと考える。

【飯盛委員】

これからも、そういう企業は増えていくのだろう。それを保護者にも伝えていく必要がある。

【田中委員】

企業が、これ位のスキルを求めるという具体的な基準については聞いていない。

また、タイピングもできないという意見があるが、年齢に応じた情報教育のモデルカリキュラムは存在している。(佐賀県独自のものではない) いきなりタブレット導入となっており、カリキュラムなどの佐賀県モデルを発信してほしいと考える。

【富吉座長】

企業において「この子はできる」となったときに、佐賀出身であったということにならないものかと考えており、指摘されたことに真摯に取り組んでほしい。

【西牟田委員代理】

何をやっても非難はされる。県も、難しいところは難しいと言っているのではないかと。

活用できるところは活用、ダメなところはダメと決めてはどうかと考えており、朝のホームルームでも、パソコンの活用を無理強いしなくてもよいのではないかと考える。

【石橋委員】

タブレットを使うことに反対ではないが、5万円の負担は、子供の貧困の問題もあり課題ではないかと考える。負担金を出せるところには、大した問題ではないと思うが、負担をかけず備品で導入してほしいと考えており、保護者の声も沢山ある。

【富吉座長】

備品で予算を組むといくらくらいになるのか。

【石橋委員】

負担金を使用料として、金額が5,000円位だと負担しやすいのではないかと考える。

【西牟田委員代理】

今年度導入された学習用パソコンは、昨年度よりスペックが落ちているのに値段が同じという理由が分からないので、検討してほしい。

【事務局】

価格が下がらなかったのには、円安の影響もある。

【西牟田委員代理】

学習用パソコンの品番も、昨年度より今年度の方が、番号が下がっているのはなぜか。

【事務局】

後継機だから番号が上がるという訳ではない。

【田中委員】

広尾学園の取組事例では、3万円くらいのクロームブックを導入しているが、理由は価格が安いからである。Google が提供するソフトを使っており、自然で無理のない使い方をしている。

佐賀県は、モデル校の環境とほとんど変わっておらず、平成23年度の構成と同様の環境であり、システム設計が古い時代のものとなっている。

授業中に使うことは生徒の判断とするなど、活用の幅を広げるべきであり、コストと活用形態の面から考えるべきであると考えている。

【富吉座長】

靱井委員の意見でも、家庭の財政環境が苦しい子供でも、スマホは持っているとのことであった。

手持ちのスマホで授業ができるのかという事や、通信費の自己負担が問題であるとする。

【大久保委員】

小学校レベルでは、電子黒板の導入で便利になった。ICTを使うからこそできることがあるのではないかと考える。

自分の家に持って帰るから自分のもの、家に持ち帰らないでよいのであれば備品で可能であり、持って帰るビジョンを示す必要があると考える。個人所有にすることで子供たちにもっともっと力をつけてほしいというところを説明すれば、動くのではないかと考える。

一括5万円の負担がきつい場合も、分割なら何とかできるのではないかと考えており、また、本当に個人で持つことの必要性をきっちり示す必要があり、5万円負担をクリアする方法も考える必要がある。

【事務局】

貸付金で分割による返還の方法もある。また、育英資金も増額しているところである。

【田中委員】

パンフレットに学習用PCの活用事例が載っているが、13項目のうち、11項目はスマホでできるものであり、学習用PCならではのものは2項目しかない。

パソコンの意義をきっちり示すべきであり、効果を感じられるものがなければ、現場は活用に疑問を感じる事となると考える。

【西牟田委員代理】

教育委員会からはスマホを学校で使うことに意見はないのか。

【事務局】

生徒指導連盟辺りで決めていることで、はっきりと回答できない。

【田中委員】

全ての生徒が自分専用の学習者PCを購入し毎日持ち帰るということは、生徒にとっては学校にとどまらず幅広い影響があるはず。そういう状況である

にもかかわらず縦割りの話しかできないことも改善すべきである。

【秀島委員】

スマホなどの併用でよい場面もあるが、管理の面ではPCできちっとやってくれる方がよいと考える。

【大久保委員】

スマホこそ持っている子、持っていない子の差がでるのではないかと考える。

【石橋委員】

5万円の負担が困難な家庭の子でも、スマホは持っている。

【富吉座長】

費用の問題は別として、改善すべき点を議論したいと考えていたが、本当はお金のことが問題ではないかと考える。

【伊東委員】

お金の話がこれほど出たが、スマホとは共有できないやり方が、佐賀県の取組ではないかと考える。

東京書籍の方と話したとき、佐賀県はパイオニアだと思っていると発言があり、私達がパイオニアである。

パンフレットについても、膨大な資料でなくても、ここに書いてある事を、人情味を踏まえて前向きにとらえてはどうかと考える。

【西牟田委員代理】

ICTに反対というわけではない。基礎となるデータがあまりにも不透明であると考えており、成績が下がることがあったにしても、データを出してもらって、どうしたら良いかと考えるべきであると考えている。

【伊東委員】

総務省や文部科学省が、佐賀県の取組をここまで応援してくれている幸せを感じてほしいと考える。

【大久保委員】

学習状況調査の結果をみても、判断力や説明する力など今求められているものが育っていないと感じるおり、力を付ける必要性がそこまで来ていると考える。子供達が、今求められている力を付けて世界へ出ていくことを考えて

授業を行ってきた。どんな力を付けさせたいかが明確だと、現場が頑張る。ICT教育は、避けては通れないことと考えており、取組の必要性を強く言ってもらわないと、何かをやりますとは言えない。最後はこうだからぜひやりますというべきであるとする。

【伊東委員】

文部科学省もアピールしてくれと言っている。「これだけ成果や数字があります」ということを得られる手段が、アンケートだと思う。

【富吉座長】

金の問題を解決する方法として考えられるのは、機種を選定や使用料ではないか。

【田中委員】

そもそも、パソコンを自己負担で買ってまでICT教育に取り組むという話はあまり聞かない。デジタル教材やオフィスのライセンス期限はどうなのかなど、細かい部分だがきっちり説明してほしいと考える。

【西牟田委員代理】

会議時間がなぜ1時間半なのか。短いと感じており、改善してほしいと考える。

【富吉座長】

これほどの議題に対して、改善検討委員会の持って行き方が難しいと考えており、こうすれば良いという方向性が見えてこないため、課題ごとに分けて開催するとより改善に向かうのではないかと考える。

【西牟田委員代理】

過去の議事録からも解決策は出てこない。

【富吉座長】

手持ちのもの、金で特化してくることが必要とも考える。

【西牟田委員代理】

スマホに切り替えるのも面白いと考える。

【田中委員】

スマホや安価な端末でシステムを組んで取り組むことも可能である。

【秀島委員】

スマホは授業でも使えるのか。

【田中委員】

授業では使っていない。調べたり、課題に取り組んだりという使い方も可能ではないか。

【伊東委員】

いかに安くすべきかは議論すべきであるが、いきなりスマホはないと考える。

【富吉座長】

今後も注目される中で、あっと皆が感じるような仕組みになれば良いと思う。本日の議論の中で出た、アンケートについては実施を検討することとし、そこから見えてくるもの、妙案もあると考える。

② その他

【事務局】

本日の記録は、作成次第、委員の皆様には発言内容の確認をさせていただく。
また、次回開催については、おって連絡させていただく。

(3) 事務局からの連絡

【事務局】

今後、謝金の支払いの際にマイナンバーの確認が必要となる。手続きについては、再度連絡する。

(4) 閉会